

6 不登校児童生徒の学校復帰支援

1 事業目的

心理的または情緒的理由により長期欠席している児童生徒に対して、小集団による体験学習及び学力保障を中心に、集団への適応と自立を促し、学校復帰を支援する。

2 実施方針

(1) 学校等の連携の下、適応教室「やまびこ館」・第2適応教室「学習支援室」の運営

- ① 入館を希望する児童生徒がいる場合は、学級担任・学年主任・生徒指導(不登校)担当と事前に十分に情報交換をするとともに、教育相談・SC・SSWに関わる児童生徒については連携を行う。
- ② こども家庭課、川西こども家庭センター、県立但馬やまびこの郷など関係機関との協力体制を確立し、必要に応じて連携する。
- ③ 必要に応じて、「やまびこ館」館長が生徒指導担当者会に出席し、学校への情報提供及び情報交換を行う。
- ④ 適宜、「やまびこ館」指導員による学校訪問を行う。また、「学習支援室」指導員については、チャレンジタイム期間中に学校訪問を行う。
- ⑤ 通館生の状況について月報、電話連絡、学校訪問等で随時学校に知らせ、家庭訪問等不登校児童生徒への学校からの働きかけを支援する。

(2) メンタルフレンドによる家庭訪問の実施

- ・ 大学等との連携によりメンタルフレンド・やまびこ館指導補助員の登録者を増やし、メンタルフレンド派遣希望者のニーズや適応教室通館生の増加に対応できる体制を整える。

(3) 「不登校を考える親のつどい」の開催

- ① 不登校で悩む保護者の情報交換の場を年2回(7月頃・2月頃)設定する。
- ② 教育相談で案内するなど、保護者への周知を図る。

(4) やまびこ館運営委員会の開催

- ・ 伊丹市の小・中学校の不登校児童生徒の実態を把握し、学校復帰支援についての研修を行うとともに、適応教室「やまびこ館」、第2適応教室「学習支援室」を管理・運営し、集団による適応指導をとおして学校復帰や社会的自立をさせることを目的とし開催する。(年間3回予定)

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 適応教室入館・通館状況に係る情報交換を、学校、SC、SSW、総合教育センター教育相談員および教育相談担当指導主事等を行うことで、通館生に対する指導を充実させることができた。

学校訪問等による情報交換	45回
SSW等との情報交換	16回
- ② チャレンジタイムのあり方を見直すことで、学校への登校を促すとともに学校に行けない通館生の居場所を確保することができた。
- ③ 適応教室通館生32人(仮入館を含む)のうち25人(78.1%)、メンタルフレンド派遣対象児童生徒6人のうち6人(100%)が部分登校や別室登校、放課後登校などの学校復帰ができた。

(2) 課題

- ① SC、SSW、教育相談、関係機関等との連携を継続するとともに、適応教室と学校が緊密

に連携を行うことで、学校からの家庭訪問に役立てるなど、学校からの不登校児童生徒への働きかけを促す必要がある。

- ② 適応教室等の不登校対策について、学校・保護者に対し一層周知していく必要がある。
- ③ 不登校児童生徒に対して個に応じた支援を充実するために、メンタルフレンド・やまびこ館指導補助員を確保する必要がある。

4 実施状況

(1) 適応教室「やまびこ館」

① 適応教室「やまびこ館」について

ア 目的

学校とは違った雰囲気の中で、学習や集団での活動を体験させることにより、集団生活への適応を促し、学校生活への復帰を支援する。

イ 運営

適応教室「やまびこ館」：市内中央部に民家を借りて運営

開館時間 月 9:30～12:00（午後：学校訪問等）

火～金 9:30～15:00

指導員 館長1名 指導員3名 やまびこ館指導補助員11名

※指導補助員は随時勤務

対象 市内在住の小中学生



② 在籍児童生徒の状況

学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	通館人数
平成27年度 3月末現在	男	0	0	0	0	0	0	2	2	4	8	15人
	女	0	0	0	1	1	0	1	4	0	7	
	計	0	0	0	1	1	0	3	6	4	15	
平成26年度末	男	0	0	0	0	0	0	0	4	3	7	14人
	女	0	0	0	0	0	0	0	4	3	7	
	計	0	0	0	0	0	0	0	8	6	14	

③ 学校復帰状況

通館生15人中13人(86.7%)が学校復帰(平成26年度 14人中8人(57.1%))

④ 館外学習

日時	場所	通館生参加人数(実数)
7月6日(月)～ 7月10日(金)	県立但馬やまびこの郷 (宿泊体験)	2人
10月28日(水)	しあわせの村・馬事公苑 (乗馬体験)	3人
3月2日(水)	千里万博公園EXPOCITY内「ニフレル」 (お別れ遠足)	3人

⑤ 館内学習

- ・学習(午前、午後 各1時間程度)
- ・運動(毎週水曜日午後 女性児童センターでバドミントン、卓球等)
- ・調理実習(ちゃんちゃん焼き等) 学期2回程度

⑥ チャレンジタイム実施状況

	在籍	完全登校	部分登校	適応教室への通館
1学期(4月)	3人	2人	1人	1人
2学期(8～9月)	9人	4人	1人	5人
3学期(1月)	15人	3人	2人	4人

(2) 第2 適応教室「学習支援室」

① 第2 適応教室「学習支援室」について

ア 目的

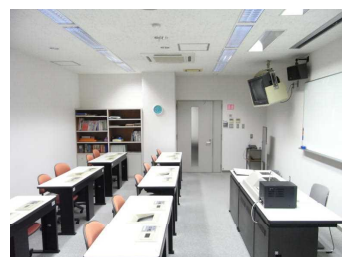
学校や適応教室「やまびこ館」と連携を図りながら、不登校児童生徒の学力の向上や学ぶ意欲を高めることをとおして、将来的な自立に向けた学校復帰を支援する。

イ 活動内容

- ・ 個別学習(一人ひとりに応じた支援)

水・木 … 数学を中心

月・火・金 … 英語を中心



ウ 運営

第2 適応教室「学習支援室」：総合教育センター内に開設

開館時間 9:30～15:00

指導員 指導員2名

対象 市内在住の小中学生

② 在籍児童生徒の状況

学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	通館人数
平成27年度 3月現在	男	0	0	0	0	0	0	2	3	5	10	17人
	女	0	0	0	0	1	0	1	0	5	7	
	計	0	0	0	0	1	0	3	3	10	17	
平成26年度末	男	0	0	0	0	0	0	2	3	3	8	17人
	女	0	0	0	1	0	0	0	3	5	9	
	計	0	0	0	1	0	0	2	6	5	17	

③ 学校復帰状況

通館生17人中12人(70.6%)が学校復帰(平成26年度 17人中6人(35.2%))

④ チャレンジタイム実施状況

	在籍	完全登校	部分登校	適応教室への通館
1 学期(4月)	9人	3人	1人	1人
2 学期(8～9月)	10人	4人	0人	3人
3 学期(1月)	15人	1人	1人	3人

(3) やまびこ館運営委員会の開催

委員長 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 吉田 圭吾 教授

副委員長 伊丹市立桜台小学校 花光 潤一 校長

内容 ① 入館・申請

② 適応教室の状況

③ 市内の不登校の状況及び今後の不登校対策

第1回 平成27年7月23日(水)

新規入館申請者数 「やまびこ館」6人 「学習支援室」5人

新規入館許可者数 「やまびこ館」5人 「学習支援室」4人

第2回 平成27年12月22日(火)

新規入館申請者数 「やまびこ館」5人 「学習支援室」7人

新規入館許可者数 「やまびこ館」2人 「学習支援室」5人

第3回 平成28年2月23日(火)

新規入館申請者数 「やまびこ館」5人 「学習支援室」3人

新規入館許可者数 「やまびこ館」0人 「学習支援室」1人

(4) メンタルフレンド派遣事業

① 目的

「メンタルフレンド」として心理学を専攻している大学院生等を引きこもり傾向な児童生徒の家庭に派遣し、不登校状態の続く児童生徒の話し相手をしたり、一緒に遊んだりし、自主性や社会性の伸長を援助する。

② 実施方法 週1回、1時間程度の家庭訪問

対 象 市内在住の小中学生

学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	人数
平成27年度 3月現在	男	1	0	2	0	0	1	2	0	0	6	6人
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	1	0	2	0	0	1	2	0	0	6	
平成26年度末	男	0	1	0	0	1	2	0	0	1	5	5人
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	1	0	0	1	2	0	0	1	5	

③ 派遣状況

※小学校1年生・3年生と小学校3年生・6年生は兄弟であり、同時に訪問。

④ 登録メンタルフレンド数 11人 訪問のべ回数 38回

(5) 「不登校を考える親のつどい」の開催

対象：不登校児童生徒等の保護者

講師：神戸大学大学院 人間発達環境学研究科准教授 齊藤 誠一 氏

第1回 平成27年7月17日(金) 参加者 6人

講話と質疑・意見交流：「不登校児童生徒との関わりをとおして」

第2回 平成28年2月24日(水) 参加者 3人

講話と質疑・意見交流：「不登校児童生徒との関わりをとおして」